

上野歯科医院
口腔内診査状況
2017

* 歯科疾患実態調査

厚生労働省が6年に1度行う調査のことです。

この調査は、日本の歯科保健状況を把握し、8020運動の効果についての検討や、健康日本21においての目標達成度などの判定を行います。

* **DMFT**: 集団における永久歯の虫歯の状態を知るために用いられます。

D: 治療が必要な歯

M: 虫歯が原因で抜いた歯

F: 虫歯が原因で治療した歯

* **d(m)ft**: 乳歯列に用いられます。

d: 治療が必要な乳歯

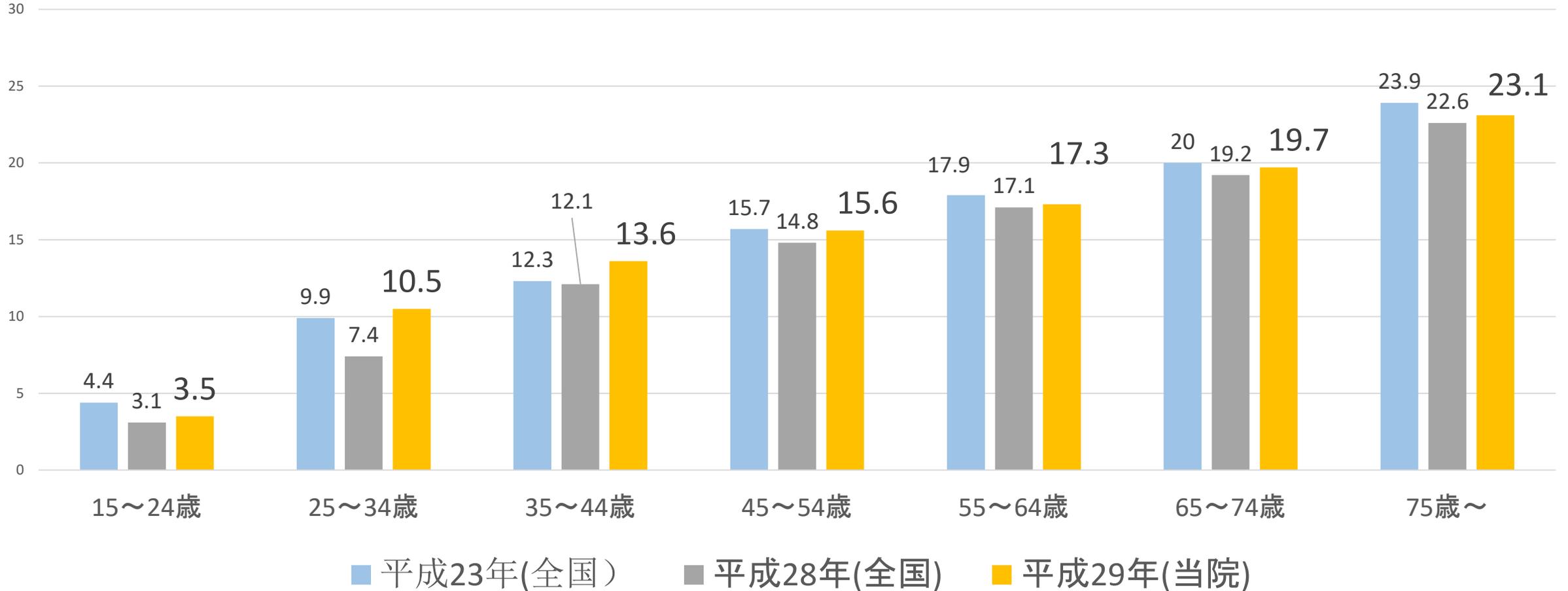
m: 虫歯が原因で抜いた乳歯

f: 虫歯が原因で治療した乳歯

今回、歯科疾患実態調査と当院のデータを比較し、さらには当院の初診時とメンテナンス時のデータの比較検討を行います。

歯科疾患実態調査と当医院の比較

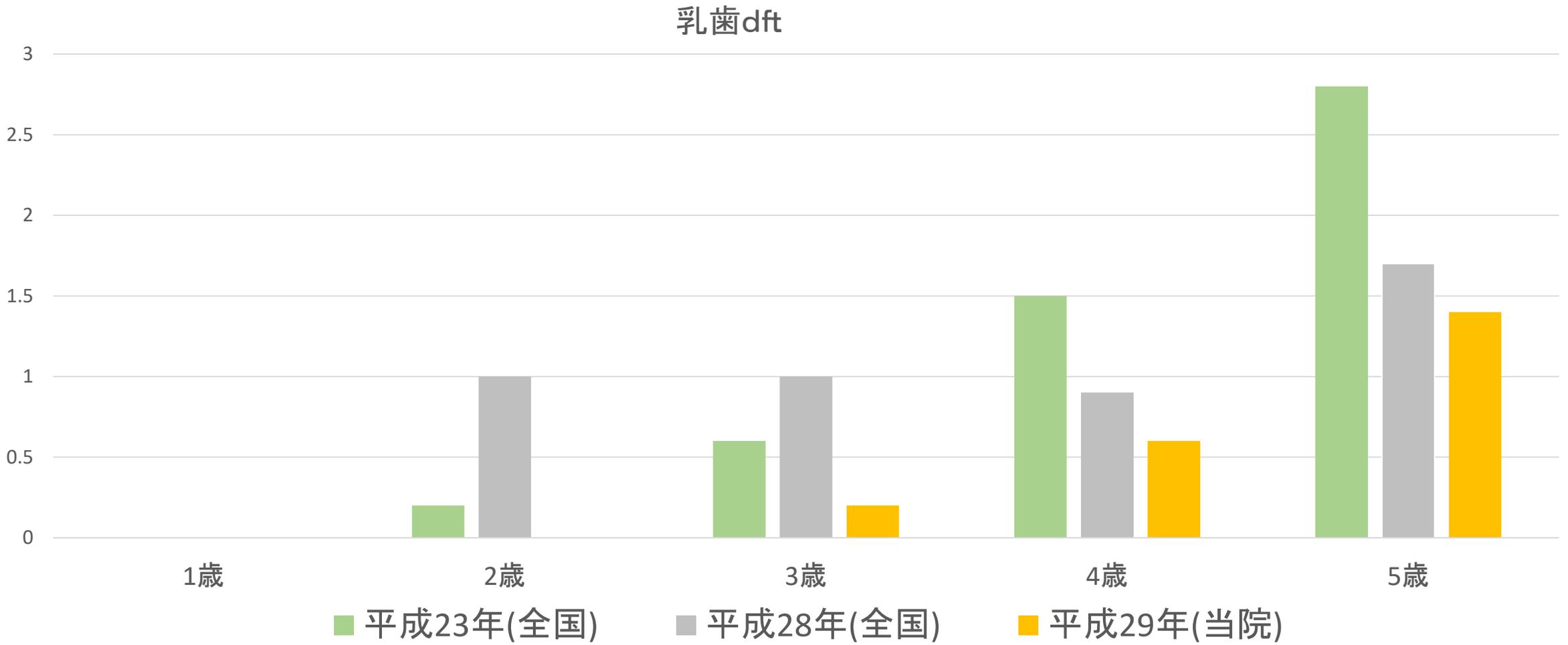
永久歯DMFT



考察 ～成人編～

- 当院の患者さんのDMFT平均は平成23年の全国平均値より45歳以上の方は良い結果でした。しかし、その後は全国的に虫歯が少なくなっているものの平成29年と比較すると虫歯の状態は悪くなっていました。
- 地域柄か歯科医院へは虫歯になってから通院する患者さんが多いことから全国平均を上回る結果になりました。
- あくまでも全国的な平均値ですが、歯科疾患実態調査よりも良い結果が得られるように、日々予防に取り組んでいきたいと思えます。

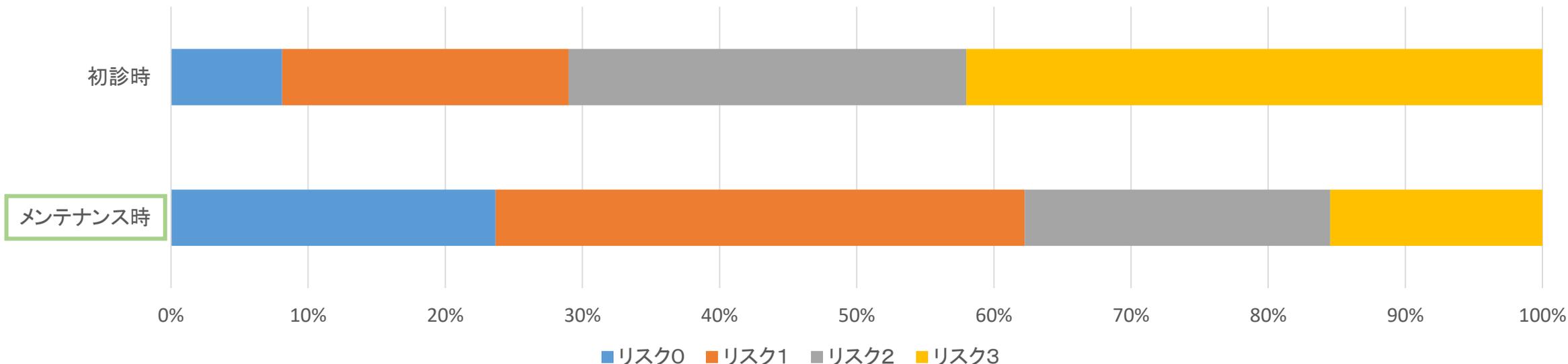
歯科疾患実態調査と当医院の比較



考察～子供編～

- ・平成23年と平成28年の歯科疾患実態調査を比較すると5年間でdftの数値がどの年齢も低下しています。低年齢からの虫歯予防が5年間でより認識された結果だと思えます。
- ・5歳以下のどの年齢でも上野歯科医院のデータの方が歯科疾患実態調査のデータよりdftが低かった、つまり全国平均より当院に通院されている患者さんの方が虫歯になっていないということです。このようなデータが取れたのはとても衛生士として嬉しいです。
- ・1～3歳までのdftに対し、4歳以降に数値が上がるのは隣接面に虫歯が出来てしまい、歯科治療を行うようになるためです。
- ・隣接面つまり歯と歯の間の虫歯はデンタルフロスの使用により予防することが出来ます。また、4歳ぐらいになればフッ化物洗口もできるようになるので導入するといいいでしょう。

プラーク量



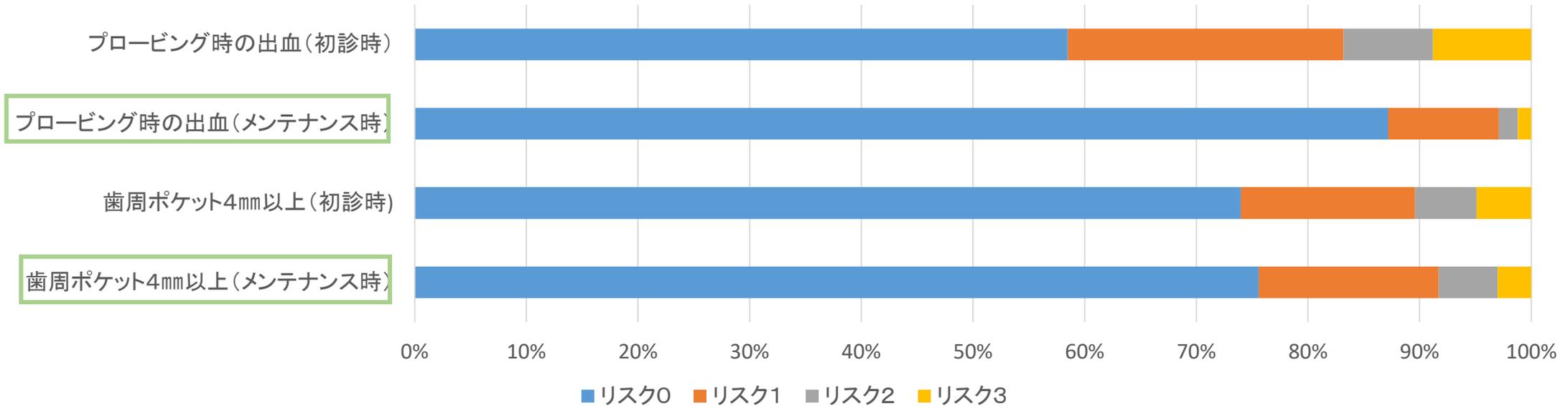
リスク0はプラークの付着量が全体の15%未満、リスク1は15～30%未満、リスク2は30～50%未満、リスク3は50%以上を表しています。

プラークとは細菌の塊で1mg中に10億個の細菌が住んでいると言われています。プラークはうがいでは除去することが出来ず、歯ブラシや歯間ブラシデンタルフロスを使用することで除去することが可能です。

初診時の方がプラークが多く付着している方が多く、メンテナンスに移行する頃には上手に磨けるようになります。また歯間清掃を行って頂くようになる方が多くなり、プラーク量が減少します。週に一回程度磨き残しのチェックのために染め出し液を使用するといいいでしょう。



歯肉の状態

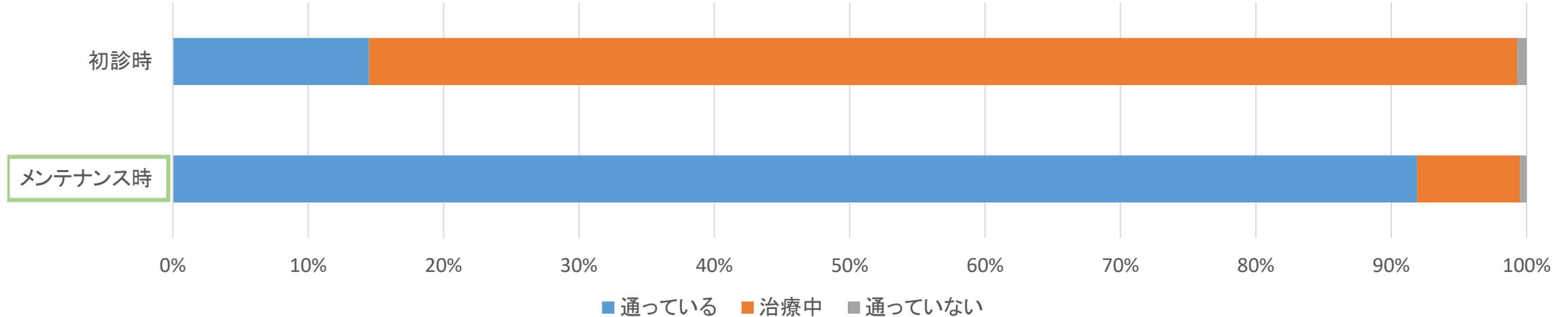


プロービングとは歯肉の検査のことで、出血は歯肉の炎症を表しています。

リスク0は歯周ポケット4mm以上、出血する部位が10%未満、リスク1は10～30%未満、リスク2は30～50%未満、リスク3は50%以上を表しています。

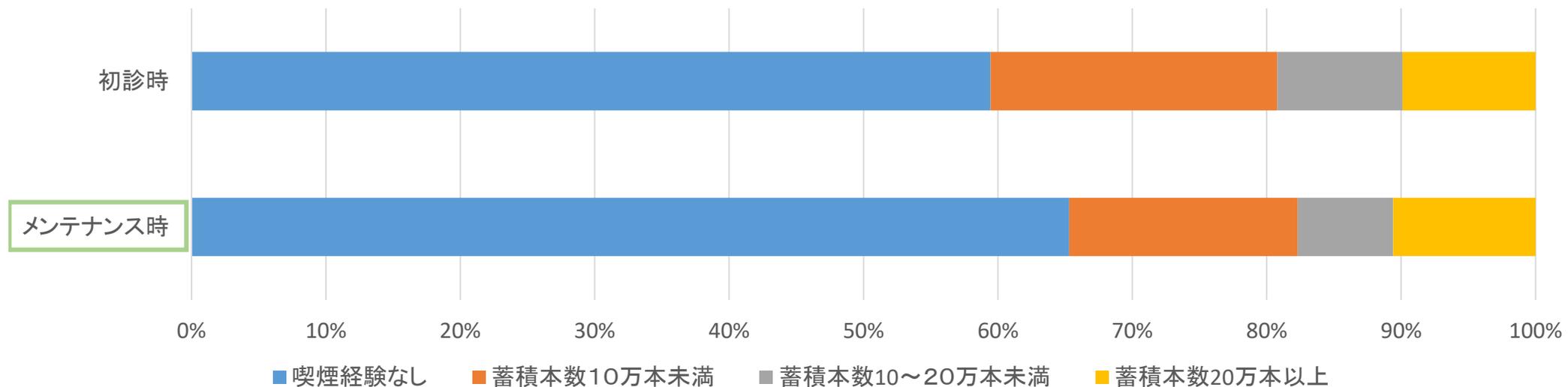
初診時よりもメンテナンス時の方がリスク0の方が増えています。これは定期的にクリーニングを受け、歯石の除去を行っている事とホームケアが確立されたためと考えられます。

メンテナンスに通っているか



初診時には定期的に歯科医院に通いクリーニングを受けるという習慣がない方が大多数です。メンテナンスではお口のチェックとクリーニングや歯磨きのアドバイスを行います。定期的に通って頂くと口の中がきれいになりますし、歯磨きへのモチベーションも維持できます。ぜひ3～6か月に一度はメンテナンスを受けましょう。

喫煙本数



たばこは歯周病を悪化させるリスクのひとつです。
喫煙歴が長ければ長いほどそのリスクは増えます。
歯周病のリスクが高くなるので喫煙される方は特にメンテナンスが
大切になります。

A comparison of oral health between non-smokers and smokers. The left side, labeled '非喫煙者' (Non-smoker), shows a healthy mouth with pinkish-red gums, white teeth, and a healthy periodontal tissue. The right side, labeled '喫煙者' (Smoker), shows advanced periodontitis with blackened gums, yellowish-brown staining on the teeth, and a bad odor. A cigarette is shown at the bottom right.

非喫煙者

- みずみずしいピンク色の歯肉
- 光沢のある白い歯
- おいしく食事を味わえる
- 爽やかな息
- 健康な歯周組織

喫煙者

- メラニン色素による歯肉の黒色化
- タールの沈着による歯面の着色
- 味覚の鈍麻
- 不快な口臭
- 進行した歯周病

*まとめ

いつもご来院ありがとうございます。

2017年も患者様のデータをもとに統計をとり、分析を行いました。

成人のデータでは全国平均より当院のデータの方がDMFTが高く、小児では全国平均より当院のデータの方がdftが低い結果でした。これは成人の方は当院を受診されるまでに多くの治療を受け、その後来院される方が地域柄多いことが考えられます。

小児の方は乳歯列完成前の低年齢で受診される方が多く、初診の時点で虫歯ゼロの場合が多いので、虫歯がないままメンテナンスを継続して受けているためにdftが全国平均より低い結果が得られたと考えられます。

「歯が痛いから歯科医院を受診する」ではなく「定期的にメンテナンスに通う」ことがいかに大事かを表した結果と思います。また、定期的に通うのは低年齢であればあるほど良いでしょう。

生後19～31か月が「感染の窓」と言って虫歯菌が唾液を介して感染しやすい時期です。その時期もしくはその前からメンテナンスに通うことをおすすめします。

ご自身の口腔内と比較して考察してみると良いと思います。歯の健康を保つためにメンテナンスに通うこと、ホームケアの大切さを理解してしっかり取り組んで頂くことがとても大切です。

皆さまに生涯健康に過ごして頂くために、お口の健康が全身の健康につながるということを伝えていきたいと思えます。

上野歯科医院